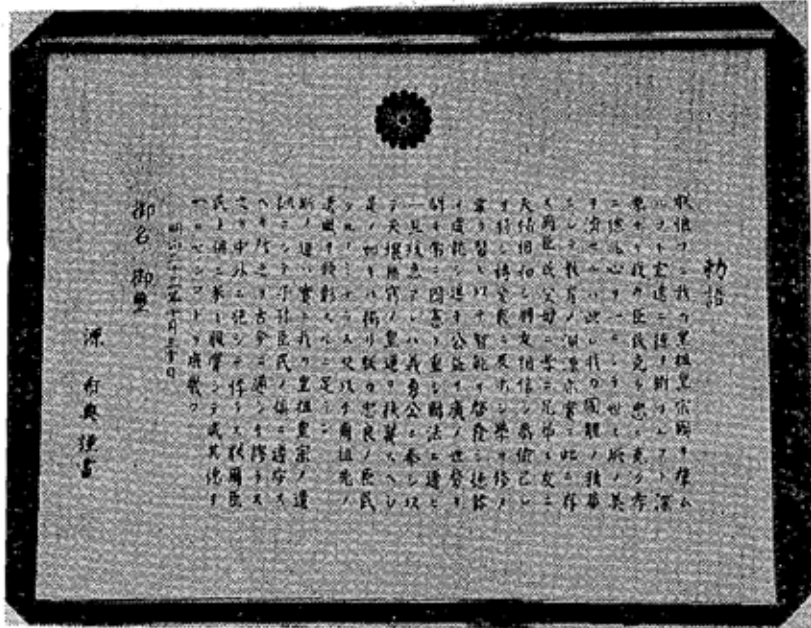


年 新 賀 謹

東京都神道青年会



皇紀二六三一年の新春を迎え、御皇室の弥栄と、
祖国日本の前途に寄与せん事を会員諸兄と共に誓
うものであります。

やくわえ

特 集 号

創立二十周年記念式典会長式辞

本日茲に東京都神道青年会創立二十周年記念式典を挙げるにあたりまして、来賓各位の御臨席をいただき、又本会創立以来労苦を共にして参られました先輩各位を始め、日頃本会の為により御指導、御鞭撻をいただき、います皆様の御参集を頂きまして、この様に意義ある式典を挙げて来ます事会員一同に代わり深く感謝申し上げますと共に、私の最も欣快に存ずるところであります。

この時勢の中にあつて今日の日が、教育勅諭漢發滿八十年の意義ある日である事に鑑み、国の将来の根源をなす教育問題に今日ほど、この精神が生されなければならぬ事を一層、喚起せしめると共に、我々はこれからの運動に飛躍的發展を期する事が出来るか、又唯単に記念行事に終らせるかは、青年会自体会員一人一人の使命感の自覚にほかなりません。

かえり見ますれば、本会は昭和二十四年に東京都神道青年協議会として発足したのであります。戦後の混乱した時期、神社界はかつて経験した事のない重大な危機にさらされ民族の伝統的精神が大きくゆれ動いている中であつて、都内の青年神職はその青春の意気に燃え、各地区で研鑽、活動を行い、その数は十二団体を数えていたのであります。その時期、昭和二十四年六月十六日に全国の神道青年協議会が結成されたのを期にその秋に都神青協として同志の結束をはかつたのであります。

今日、我々は決意を新たに会員一同結束の旗印を作りました。この会旗をさらしものにしてはなりません。云うは易く、行いは難いですが、事を行うに失敗を憂慮してはなりません。

その後、多くの足跡を残した都神青協が現在の東京都神道青年会の名称に改名されたのが昭和三十一年であり、新たに都内青年神職一丸となつての歩みがつづいてまいつたのであります。

変転激しい現代にあつて、単に経済的繁栄にささえられた生活の安定を神社神道の興隆と錯覚することなく、近代化と神社、この一言に包含される全ての問題に、青年神職としての氣迫をもつてあつていこうではありませんか。

さて二十年の歳月を経過した今日の時点に於て、我々青年神職がなさねばならぬものは何か、大きく問われるところであります。創立の精神「民族精神の基盤なる神社信仰の本義に徹し、国家再興のために強力なる運動を展開せん」のこの決意は今日なお脈々として受け継がれておりますが、然しながら戦後の混乱期に日本の将来、民族精神の喪失を憂いて日夜寢食を忘れて奔騰した諸先輩の努力にも拘らず、今日の日本の情勢はいかがでありましょうか、確かに数多く、機会あるごとく聞かれる様に、その経済的發展繁栄は世界の驚異のまなこを集め、人々の日々のくらしは豊かにになりましたが、その国民思想の混乱はますます、波及の一途を辿っているといえます。

神社界の将来は我々神職の双肩にかかっている、この自負の念に今こそ一致団結して使命達成に勇躍邁進しなければならぬ秋であります。

どうぞ会員の皆様には青年神職としての自覚と信念を堅持せられ今後一層の奮起と御協力をお願い致しますと共に、更に先輩各位の御指導御鞭撻を切にお願い申し上げます。

昭和四十五年十月三十日 八木 光昭

東京都神道青年会

創立二十周年記念大会開かる

「10/30 教育勅語渙発八十周年記念日」

混迷の時代、激動の新時代とも言われる、いわゆる一九七〇年代に、われ等東京都神道青年会の輝かしい、創立二十周年記念大会が、教育勅語渙発八十周年のお祝いすべき良き日に盛大に開催された。

第一部式典

神田明神会館大広間に於て、午後一時北川実行委員司会、宮西副会長開式を述べ、参加者全員が「美わしき山河」合唱の中を、国旗会旗が入場、神宮遙拝、国家斎唱、敬神生活の綱領唱和、八木会長の挨拶、実行委員を代表



して、鈴木秀磨氏の経過説明、次いで来賓の祝辞に移り、斯界を代表して、本社本庁、大鳥居神社庁長

その他友好諸団体代表の祝辞の後、祝電の披露、続いて我々の総意を宣言する為、鏡教養部長が高らかに宣言文を朗読、



万場拍子の内に第一部を閉会した。

第二部記念講演

小憩の後、「現代の教育を考える」と題して



前東京教育大学々長三輪知雄先生が静かな中に独特な話法で語られ、満場肅として聞き入り、多大な感銘と指針とを与えられた。

第三部正式参拝・祝賀会

続いて、大広間より神田神社大前に参列、正式参拝後、祝賀会々場に移動した。

祝宴開会の辞に先立って、神前より撤下の樽御興を神青会若手の奉仕により、拍手の中を会場中央に安置、高橋実行委員司会のもと大鳥居



庁長が鏡開の槌音を響き渡らせ祝宴の幕が切れて落された。

日暮副庁長の乾盃音頭で会場は二十周年奉祝の気に満ち溢れて盛況を極め、酒や料理に皆舌鼓を打ち、明神下芸者による舞踊や、会員諸兄の余興等が和氣霽々の裡に、午後六時過ぎ迄続き、滞り無く終了した。

尚当日の記念品として、乃木將軍の真筆に成る、教育勅語を複製参加者全員及び協賛者に額縁をつけて贈呈した。



宣言

いわゆる一九七〇年代を迎えたわが国現下内外の大勢は極めて混沌とし、物質文明に犯された歪は各処に露呈されているが、本会はかかる巖しい情勢の中に、記念すべき創立二十周年を迎えた。

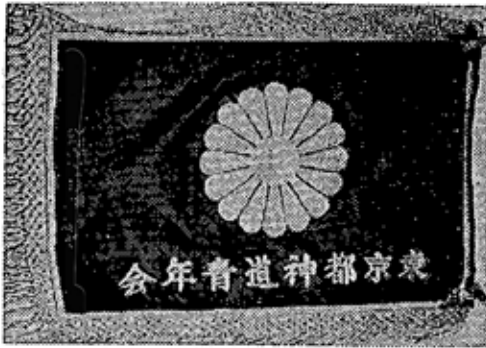
この時に当り、われわれは青年神職に課せられた使命の重大さを一層自覚し、祖国の安泰と民族精神の作興を念願して若き神道人を結集し、いよいよ一致団結、神社神道の本義に徹し、さらに教化活動の推進をはかり、以て斯道の興隆と祖国の繁栄に寄与せんことを誓う。

右、宣言する。

昭和四十五年十月三十日

東京都神道青年会

創立二十周年記念大会



会旗入魂式齋行さる

国旗布告百年の記念すべき年を迎えた意義ある機会に、われわれ神道青年会シンボルである会旗が制作され、創立二十周年記念大会に先立ち、十月二十九日、午後三時、神社庁神殿において、実行委員参列のもと

に、八木会長齋主、森田副会長齋員となって、紫紺の色も一きわあざやかな美しい会旗と、国旗の入魂式が、入念厳そかに執り行はれた。神事のあと、御神前で記念撮影があり、そのあと簡単な直会、引続き、明日の記念大会の会場である神田神社へ向い諸、準備に全委員で奉仕。



